

いとすぎの丘



日本赤十字豊田看護大学
Japanese Red Cross Toyota College of Nursing

Vol.5

発行日／2007年4月1日



本学体育館およびグラウンドにて

平成18年度日本赤十字社愛知県支部救護班要員研修について



去る平成19年1月23日（火）から25日（木）にかけて、日本赤十字社愛知県支部および日本赤十字豊田看護大学において、上記研修が

実施され、本学看護学部3年生129名も参加しました。災害時に十分な救護活動ができるよう日本赤十字社の役割を知り、救護活動に必要な知識と技術を修得するための研修や、被災地（仮想）における他機関（愛知県警察、名古屋市消防局等）と連携した実働訓練を見学・体験しました。



Campus Life 2006

自由にのびのびと
球蔵 一丸となって・THE☆にこりん・バドミントン部
成長することができた3年間
この1年を振り返ってみると
日豪国際交流事業参加
ヒマラヤ登山

平野 翔子
宮地由季子
今井沙耶佳
森 咲絵
渡邊 直子

Topics

英国出張で感じたこと
第1回中部ブロック赤十字病院看護セミナーを開催して
日本赤十字豊田看護大学の学生諸君へ

講師 鈴木 千智
看護学部長 小西美智子
副学長 渡邊 英夫

公開講座

看護研究
看護教育方法

教授 杉浦美佐子
助教授 松田日登美

随想 細川郷

学長 村地 俊二

研究の窓、研究室紹介

成人看護学 教授 三河内憲子

Academic Library

Information

■ 公開講座 オープンキャンパス 入試情報

サークル紹介

自由にのびのびと

平野 翔子

日本赤十字豊田看護大学には、現在15のサークルが活動しています。音楽好きの学生は、学生生活の中で音楽を楽しみたいという思いから、「軽音部」や「アコギ娘＊サークル」を設立させ、放課後、お昼休み、授業の空き時間に練習するなどの活動をおこなっています。そうした取り組みによって、学内ではふと気がつくと、どこかからかギターやドラムの音が聞こえてくるようになりました。また、スポーツ好きな学生が集り、学年を越えバスケットボールで汗を流し活動している「ブルバ部」や、夏でも冬でもとにかくテニスを楽しみたいという学生が集い結成した「テニス部」などがあります。他にも、「日本赤十字豊田看護大学青年奉仕団」、「心と地域研究会サークル」、「弓道部」、「フィギュアスケート同好会」、「アクティブ・クリエートサークル」、「エアビー」、「Fe+十サークル」、「ダンス部」、「球蔵」、「THE☆にこりん」、「バドミントン部」などがあります。

これらはすべて学生たちが独自に考案・結成し、その目的と趣味を生かして楽しみたいという思いを根底にして創りあげられたサークルです。今現在もそれぞれが学生生活の更なる充実を期待し、自由にのびのびと活動しています。

球蔵 一丸となって

球蔵は週に一度、体育館で放課後バレーボールを行っています。少しでもバレーボール技術が上達するように一生懸命練習していますが、決して厳しい練習をしているわけではありません。バレーボール経験者と初心者が混合した中で、楽しく和やかな雰囲気です。毎週活動しています。

また毎週のバレーボール練習以外にも、年間行事として様々なイベント企画を行っています。昨年度は花見から始まり、親睦会、夏合宿、球蔵カップ(球蔵主催のバレーボール大会)、駅伝やマラソン大会の参加などがあり、一つ一つのイベント毎に仲間の絆を強めることができます。その中でも特に大きなイベントである夏合宿は、新入生と上級生との仲が一気に深まります。昨年は静岡県熱海市で二泊三日の合宿を行い、球技大会、海水浴、スイカ割りや花火など、上級生が楽しい合宿にしようとして事前に準備を行った甲斐もあり有意義な合宿となりました。

学年を越えた仲間と交流をもてることはサークルの醍醐味でもあります。球蔵はその他にも名古屋第一赤十字病院、加茂病院のバレーボール部と合同練習を行っています。そこでは、ただ単にスポーツを楽しむだけでなく、病院職員の方々の話を直接聞くことができるので、バレーボールの技術と看護師になる自覚の双方に良い刺激を受けることができます。

このように、たくさんのイベントを行い活動の幅を広げることができたのは、球蔵部員一人ひとりの“球蔵を楽しく盛りあげよう”という努力の結果であると思います。球蔵は部員皆で作りに上げていくサークルです。これからも、球蔵一丸となって楽しいサークル作りをしていけたら良いと思います。



THE☆にこりん



みなさん「THE☆にこりん」って知っていますか？知らない？？ではここで「THE☆にこりん」について知っていただきたいでしょう！「THE☆にこりん」では毎週金曜日(18年度)の授業後学校のグラウンドで、あの

今流行のフットサルをやっているサークルのことなのです!!しかし、このサークルメンバーは全員フットサル初心者なので、フットサルを楽しむことに命を懸けています!!それから仲良く楽しくがモットーです。ボール愛好家のキャプテンが私たち一般部員を率いて、ボールと戯れることの楽しさを教えてくれます。そのおかげでリフティングが楽しく見事に上達しています。他にも、パス練習や守備・攻撃方法、見えないコート(無限に広がっています)でのミニゲームをし、フットサルの技術を鍛えつつみんなで楽しくやっています。それから、新人さんが入った時には新入生歓迎会などもしています。そして、私たちサークルメンバーはお互いの信頼関係を築き上げ、ますますサークル活動を楽しめるものになっています。

皆さんに知っておいてもらいたいことは、このサークルは18年度の1年生で新しく作りました!ちなみに今現在、1年生11人、2年生2人の部員で構成されています。そして顧問の先生は大らかな心の持ち主の市江和子先生です。顧問の先生とは、一緒に参加するお食事会で気軽にお話できる仲になりますよ。最後に…このサークルは女子限定です。シャイなあなたも一緒にフットサルを通じて私たちと交流しませんか!?

バドミントン部

皆さんこんにちは。バドミントン部部長をしている渡邊と言います。バドミントン部は昨年度に現2年生で立ち上げたのですが、今年度は宣伝していないにもかかわらず、やる気のある7名の1年生が入部し、現在は1年生7名、2年生18名、計25名で活動しています。入部する条件は、初心者、経験者に関わらず上手くなりたいと強く思っている人です。ただ楽しく打つだけでは本当のバドミントンのおもしろさは分からないので、ある程度の基礎は身につけようということで、『サークル』としてではなく『部』という位置づけでやっています。活動内容としては、週1回1、2時間の練習と、年1回の部内選手権で、中には公式な大会に出場する人もいます。今年度は6月に行われた愛知学生バドミントン選手権大会に4名が出場しました。1、2回戦敗退といふ結果は得られませんでしたでしたが、とても貴重な経験になりました。



部員は初心者が多いので、まずはラケットの持ち方からフットワーク、基礎打ちまでを覚えてもらい、経験者はさらなる技術の向上を目指しています。筋力、体力づくりもハードに行っています。週1回なので、次の日筋肉痛になる人、多数です。この時期は2年生があまり参加できないかわりに、1年生がとても熱心に練習しています。看護大学なので、練習をコンスタントに続ける事がなかなか大変なのですが、できる範囲内で一生懸命頑張って部を盛り上げていこうと思っています。また、バドミントンを通して交流が深まれば良いなと思っています。

学生生活

成長することができた3年間 宮地由季子

今日までの大学生活を思い返すと、この3年間は今まで経験したことのない多くのことを経験し、その中でいろいろな考え方や思いを知り、感じ、成長することができた時でした。特に実習での経験は技術面だけではなく、考える力や精神面が鍛えられたと思います。実習は辛いこともあって、逃げ出したくなるような思いになったことも何度もあり、将来看護師として働くことが本当にできるのかとさえ悩んだこともありました。一つ一つクリアしていくことで成長することができたのは事実であり、苦しかった分、終わったときの達成感はとても大きく、患者さんから「ありがとう」という言葉をかけてもらった時や笑顔で退院していけるのを見送ることができたときは本当に嬉しく思いました。



実習だけでなく、イギリスにホームステイをしたことや献血のボランティア活動に取り組んだことは、自分を成長させる1つになったと思います。

いろいろなことを経験してきて今思うことは、一緒に頑張ってきた仲間がいたからこそ辛かったことは乗り越えることができ、楽しかったことはさらに楽しくなったのです。また、何かに挑戦しようと決めて挑戦してきたからこそ、今の自分があるのです。1、2年目は授業数が多くて目の前にある課題をこなしていくことが精一杯だったけれど、今思うのもっとできたのではないかなと思うばかりです。勉強だけではなく、遊ぶことや何かに取り組むこと挑戦することなどすべてにおいて、学生のうちだからこそできることがたくさんあるのだから、時間を大切に使い、仲間を大切に、いろんなことに挑戦してほしいと思います。

大学生活もあと1年となり、何をしなければいけないのか真剣に考えなければいけない時期になりました。何をすべきなのか明確にし、残り1年は悔いが残らないように、目標を達成できるように、これまでの経験や学んだことを生かし頑張ろうと思っています。

学外活動

日豪国際交流事業参加 森 咲絵

日本だと肌の色、話す言葉が少しでも違っている人を見かけるとつい過剰反応をしてしまう傾向がある。普段私達が生きている中で肌の色や話している言葉が違っている人々がいるのが当たり前という環境下にはない。それ故、外国の人だという反応を無意識にしよう。

オーストラリアの土地では肌の色、宗教、育ってきた環境により各個人の考え方や価値観が違う多種多様な人々が共存しているのを目の当りにした。だが、一様に同一民族間でカテゴリーを作っていない。このことを実感したのはまず、デビッド・デ・クレツァー州総督を表敬訪問した際、心から温かく歓迎してくださったことから始まった。話の中で、彼は自分自身がスリランカ出身であることを誇らしげに語ってくださった。そしてオーストラリア出身の人が州の総督を担っているのではないが、オーストラリアに住む人々は一様に総督を慕っていることを私自身現地の人と話をしてわかった。また、私のホストマザーはタスマニア出身の方で、日本人である私を実の娘のように迎え入れてくださった。このように各個人が個人個人を尊重し、

この1年を振り返ってみると 今井沙耶佳

この一年を振り返ると、あっという間の1年でした。住む環境も、周りの仲間も何もかもが一からのスタートとなった大学編入生活…思い返すと、はじめは不安と期待が入り混じった私ですが、実際はそんな事を考える暇もないくらいにあっという間に1年が終わっていました。

私は、保健師になりたいと思いこの大学編入を決めました。編入生10人が、様々な場所から日本赤十字豊田看護大学の第1期生として集まりました。長く臨床を経験した後に編入した仲間もいれば、私のようにストレートに編入してきた仲間もいます。様々な環境から個々の考えや思いを持ち合わせ、各自目標の定まった仲間が集うということはこんなにも直に意気統合し、高め合えることができるのかと驚きました。お互い定める目標も様々ですが、多方面からの意見が飛び交うことがとても活発的だと思います。また、現場経験者の生の声を聞き、同じ講義を受ける中でも一度臨床を経験している人だからこそその視点での話はとても参考になり、看護短大時代とはまた違う仲間として成長させていただいています。

「看護分野」の講義は現役生中心の講義となりますが、今まで学び持っていた知識の再確認をする機会となっています。また、新たに「保健分野」の講義を受ける中で改めて思うことは、「看護分野」以外の世界に目を向けると自らの視野・世界感が広がるということです。残された1年も、もっとあらゆる面で自分の世界観を広げて生きたいと思っています。

このように、怒涛のように過ぎていった1年でしたが、楽しく、そして有意義に過ごせたのも良い仲間にも恵まれたからだと思います。最後になりましたが、初めての編入生受け入れということで、要所に戸惑いもありましたが、編入生の戸惑いを看護学部長を始め各チューターの先生方が話を聞いてくださり、丁寧に対応してくださったことにとても感謝しています。



心を許している。つまり「今オーストラリアにいる」ということが重要で、出身や言語を超えて、私達・彼は「今オーストラリア人」なのである。「今オーストラリア人」として生きているので相手を自分のことのように歓迎し、尊敬するのであるといっても過言ではないと思った。

さらに言語、出身、社会的、経済的地位とは関係なく困っている人々を手助けしている地域密着型の支援センターを訪問し、地域の声を聴いた。この機関は「圧力、差別を無くし社会に平等を」と求め続けている。ここから助け合いという概念が生まれたのだろう。またオーストラリア独自のアボリジニー文化を根底とし、オーストラリアに住む多種多様な民族の文化が入り混じっている。入り混じるからこそ新しい文化が創られ人々を一体化させ、心の絆をより強固なものとする。故に共存という道が開けていき、多民族の国オーストラリアが存在していることを直接肌で感じた。

最後に数多くを私は得た中で「自分を持ちつつ他を受け入れる、心と心の繋がり」が重要であることがわかった。多文化は常に動いているものである。目まぐるしく日々状況が変わっていく中で、目的を持ちつつ自分の位置を確認しないと、多文化という大きな波にのまれてしまう。このような意味でも、自分が持つ文化を尊重しつつ他の文化を受け入れることの意味が再確認できた。

日本赤十字豊田看護大学の学生諸君へ

副学長 渡邊 英夫



あと一二年で名古屋駅周辺には四つの超高層ビルが建ちます。さらに5棟も建つらしいと云われています。今や名古屋駅周辺は活気づいています。この名古屋駅から西方へ歩いて30分の所に名古屋第一赤十字病院があります。

只今工事中です。平成20年秋には東棟に次いで西棟が完成し、新病院が稼働します。5台の救急車が同時に接着できる救急車ポートが動き出し、愛知県・名古屋市の西部地域の第三次救急体制は充実したものになります。

昨10月当大学副学長に就任いたしました私は名古屋大学医学部卒業後、内科医、神経内科専門医として働いてきました。昭和44年4月名古屋第一赤十字病院に勤務し、院長職を最後に平成16年3月退職しました。縁あって同病院に35年間勤務したことになります。今、建設中の病院では旧病棟すべてを取り壊し、新しい構想の基、すべて新病棟を建築することを決断し、各方面の関係者のご理解をいただき、青写真を引き、実行にうつした病院の最高責任者をしていました。

東棟は地上40.3M、西棟は地上63.9Mの高さで現在の病棟の

倍近くの高さとなり、大きな赤十字のマークが四方八方から見えるようになります。

どうも特別な思い入れがありますので、つい前置きが長くなりました。お許し下さい。

さて、この新しい・美しい病院の建物はどのように出来て行くのでしょうか。何と直径1mから2.4mにもなる太い杭が合計277本も地下の堅い岩盤まで打ち込まれております。工事は大変危険が多いのに、地味で我々の目に止まらないものですが、この基礎工事は大変重要なものです。この基礎工事が完璧になされることで地上の建物が安定して立派に建築されます。基礎がしっかりしていることが重要であることはすべての分野で共通しています。

私が学生諸君に将来こうあって欲しいと願うことは、もし不幸にも最愛の人が病に倒れたとき、その看護を他人に頼るのではなく、胸を張り自信を持って自分が最愛の人を看護できるようになることです。そのとき自信がないことは悲しいことではないですか。どんなに苦勞し努力をしようとも「砂上の家」では崩れるのみです。しっかりとした基礎工事があって立派な家が建つように、看護の世界でも看護の基礎が大切です。今！学生諸君は大切な看護の基礎を勉強しているのです。これは基本の基本です。

すべての道には心と技術があります。この二つを会得し、将来「プロ」の看護師になられることを切望します。

英国出張で感じたこと

—看護の過去・現在・未来をつなげる対話— 講師 鈴木 千智

平成18年7月8日～21日までの2週間、英国を訪れました。今回の主な目的は、サリー大学で開催される国際会議と看護倫理に関するサマースクールへ参加することでした。サリー大学はテニスで有名なウィンブルドンの近くにある非常に緑豊かな広大なキャンパスを有する総合大学です。

まず最初に参加したのは、グローバル化する世界の動きの中で、看護職は何を期待され、そして何ができるのかを討論する2日間の国際会議です。今回が10回目で、『Ethical, Legal and Political』というテーマで行われ、講演と討論で構成されていました。講演では、看護職の海外流出の影響やグローバル化する社会の経済変化が看護に与える影響など、多岐にわたる内容が6題あり、討論は自分の興味のあるテーマのグループに参加し、自由な話し合いを行うものです。参加者は事前に配布されたCDに収められている論文を読んで参加することが原則で、ファシリテーターはテーマに関する論点を絞り込んでいくことに主眼を置いて討論を展開します。この討論からは内容だけではなく、各国の状況や価値観が違う中、本質を討論しようとする話し合いの進め方や事前準備の姿勢など様々なことを学ぶ機会となりました。各国の看護職の方々の視野の広さと先見性には驚かされることが多く、特に、社会で起こっていることと看護との共通点を見出して話し合うことの大切さを教えられました。

次に参加したサマースクールは、雑誌「Nursing Ethics（看護倫理）」の主任編集者を中心となって開催している看護倫理をテーマにしたものです。3回目となる今回は、倫理を看護学生に教える方法論について行われました。事例を提供し

分析していく方法、学生自身が自分自身の経験から倫理的問題を孕んでいると思われるものを書き出しそれを学生同士でコメントをしよう方法、分析の観点などを素材に様々な討論が行われました。方法論や細部にこだわりすぎると全体を把握できにくくなることも指摘され、政策、組織などの観点を含め、常に幅広い視点で考えていくことの重要性も話し合われました。看護学生の背景には各国で違いがあるものの、若く社会経験の乏しい学生に倫理を教える難しさや倫理を客観的なものとして捉えるのではなく、自分自身の中に常にあるものであることを認識することなど、ややもすると一番忘れがちな部分にも話題が広がりました。

滞在期間の最後に、聖トーマス病院の一角にあるフローレンス・ナイチンゲール博物館を訪問することができました。劣悪な環境下で行った彼女の功績から今の私達は何を学び、何を受け継いでいかなければいけないだろうかと、約150年以上も昔の社会に思いを馳せながら、展示品やビデオなどを見学しました。

効果・効率を重視しがちな今の時代、グローバル化する社会の中で看護に求められるものを過去・現在・未来をつなげて考える機会となり、常に社会に向け、変化を共有する対話をしていくことを忘れてはいけないと思いました。



第1回中部ブロック赤十字病院看護セミナーを開催して

看護学部長 小西美智子

当大学の設立目的の1つに中部ブロック(愛知県、静岡県、三重県、岐阜県、長野県、富山県、石川県、福井県)にある20箇所の赤十字病院と密接な連携を保ちながら、看護教育および看護実践の質向上に寄与することであり、その役割が求められています。そこで開学2年目から、豊田看護大学としてどのようなことが担当できるかを学内で話し合いました。それらの結果を基に中部ブロック看護部長会と数回の検討を行った結果、第1回目の看護セミナーとして、中部ブロック赤十字病院の看護職と大学看護教員との協働による看護ケア質の改善策として、「看護倫理」をキーワードに基調講演とワークショップを組み立てました。開催日時は平成18年8月3日-4日で豊田看護大学で開催することになりました。今回は初回であることから、看護倫理に関するワークショップの課題につきまちは大学側が原案を出して参加者を募り、さらに参加者からも看護倫理の追加議題をもとめました、その結果ワークショップは9つの課題についてを行なうことになりました。実際の2日間の日程は表1に示しました。

中部ブロックの18赤十字病院から計56名の参加者があり、その職名は看護部長、副部長、師長、係長、看護師と多様でした。ワークショップは赤十字病院の看護職50名と大学の看護教員ほぼ全員と基調講演担当の河合先生も加わって、課題テーマにグループに分かれて計4-5時間の討議・まとめを行ないました。その討議の成果を参加者全員が共有できるように、全体会として1時間かけてグループ毎に発表と質疑応答を行ないました。その発表の状況は写真で提示しましたように、スライドまたはオーバーヘッドプロジェクターを用いて、具体的にわかりやすい内容で、短時間で討議をまとめ、発表する過程にチームワークと多くの努力とあったものと敬意をもって拝聴いたしました。

図に示したように、参加者がセミナーに参加したきっかけは「上司に勧められた」が最も多く、次が自主的であった。セミナーの形式は今回の方法を希望する者が大多数であった。また今回のセミナーに参加した感想を自由記載で記入していただいた結果、看護倫理問題を考えていく手順、実践看護活動と倫理の関係、倫理の原則や要綱等の基本等についてじっくりと考えることができて良かったとい



う記載が半数近くありました。またワークショップは中部ブロックの他の赤十字病院看護職および教員も加わって討議したことから、いろいろな者と看護実践

や看護倫理について話し合い、交流ができたことを成果として記載している者も多くあり、そしてワークショップの時間が少なかったという記載も多くありました。そのほか赤十字の理念について学べた、参加してよかった、今後の看護活動に生かせる等、参加者が満足してセミナーを終了し、それぞれの職場に戻られた様子に開催側としてはほっとしました。一方参加者からは全体交流会の開催、開催時間の見直し、事前学習についての連絡等の要望もあり、次回のセミナーへの課題として検討していきたいと考えています。さらに講演やワークショップのテーマについても記載していただきましたので、大学全体の教員と運営を含めて検討しながら、実施可能なテーマを模索しながら、この中部ブロック赤十字病院看護セミナーを継続して開催して行きたいと思っています。

中部ブロック赤十字病院看護セミナー日程概要

第1日目		成人看護と倫理 老年看護と倫理 精神看護と倫理 地域看護と倫理 赤十字と倫理/看護管理と倫理 大学内の施設見学
10時	基調講演 看護倫理と看護活動ー看護倫理の歴史の変遷 と今後のテーマ(木村美智子 教授) 看護研究と看護倫理(小西美智子 学部長) 赤十字理念の概要(河合利彦 講師)	
15時	ワークショップ 看護研究と看護倫理 I および II 母性看護と倫理 小児看護と倫理	第2日目
		10時 ワークショップの継続
		14時 ワークショップ9課題の発表と質疑応答
		16時 終了

図1 本セミナーに参加された、きっかけは(複数回答)

- ① 自主的に参加した
- ② 上司から薦められた
- ③ 参加ワークショップの関連部署等に所属している
- ④ その他・倫理委員会を立ち上げていきたい。
・倫理委員であったので、委員会よりすすめられた。

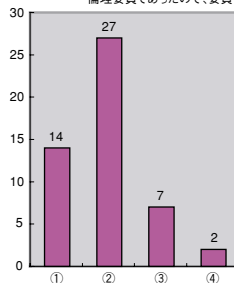
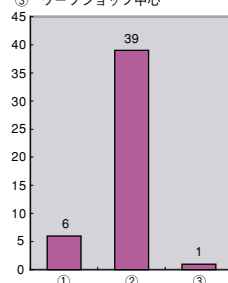


図2 参加を希望されるセミナーの形式は(複数回答)

- ① 講義形式中心
- ② 講義形式とワークショップ
- ③ ワークショップ中心



公開講座紹介 看護教育方法

—視聴覚教材制作と活用を中心に— 助教授 松田日登美

昨今は看護実践能力の育成に関する課題が示され、基礎教育ならびに新卒看護職の看護基本技術の習得に関する教授の効果が期待されています。効果的な教育方法として、視聴覚教材はよく活用されています。それぞれ特徴や課題があり、それらを考慮して、



私達は視聴覚教材を制作し、授業ならびに自己学習に活用しています。

視聴覚教材制作では、内容を明確にしてそれをどう提示するかに留意と工夫が必要です。技術教育の教材作成の場合、教授内容を看護技術の文献にある共通内容や「看護学教育の在り方報告書」を考慮して構成要素を抽出し、そこにメッセージを込めてどのように提示するかを検討します。特に、撮影や

編集での画面構成と映像の見せ方に配慮しています。

まず、何をどこまで伝えたいのか、どのように対象者に行動変容や意識変革をもたらせたいのかを明らかにしつつ、教材の限界も留意して、目標と内容を決定します。次に、どのように提示するか、どの方向から見せるのか、何を強調したいのかという画面構成・構図を検討します。それは、この映像から何を学ばせたいかという意図を生かすことであり、アップの多用か、遠景での提示か、また光や音など効果の挿入も考慮します。撮影前に撮影のコンテを作成し、撮影者間で共通認識していきます。編集は凝ると作成側にはおもしろいのですが、加えすぎると見た目にとらわれ、学習者は内容に注目していない、あるいは記憶にないということになりかねません。編集は多用しすぎないようにしています。活用するときはスローで見せる、コメントを入れるなど、見せる上での効果をねらっています。

今私達は、従来作成してきた視聴覚教材を活用してweb上で閲覧し、学生や新卒看護師の基礎看護技術習得の一助とすべく、教材を開発しつつあります。自己学習に最大限活用できるよう、教育環境を整えていきたいと考えています。

随想 細川郷

学長 村地 俊二

わが日本赤十字豊田看護大学は西三河地方の豊田市にあり、その南南東は岡崎市に隣接している。

その豊田市の東縁に沿って南下し、岡崎市の西縁から安城市の南端を西走し、碧南市と西尾市の境界を、さらに南下して三河湾に注ぐのが「矢作川」の大河である。

岡崎市の北部を形成する岡崎市細川町の「細川」は、「矢矧（やはぎ）志拔粹」によれば矢作川の別名で、三河とは「御河（みかわ）」あるいは「美河（みかわ）」をあらわし、三本の川でもなく、小さい川でもなく、大河の矢作川を指しているのである。

その「細川郷」といわれる昔の三河国額田郡細川庄は、奥殿、奥山田、桑原、宮石の4ヶ村を含む範囲といわれる。上記矢作川を挟む岡崎市細川町の対岸は現豊田市に属するが、元よりかつては同国であり、豊田市の南端に近く位置する現在の「幸（さいわい）町」には「隣松寺（りんしょうじ）」という創建が承和10年（843年）の古刹があり、その境内墓苑には細川初期3代、すなわち初代義季、2代俊氏、3代公頼と、初代義季の弟義宗の計4基の墓が現存する（図1）。



図1 細川初代義季、初代弟義宗、2代俊氏、3代公頼の墓（豊田市、隣松寺墓苑）

細川家創建の時代を眺めると、先ず歴史に名高い八幡太郎源義家の孫、源義重が「新田氏」を興し、その弟義康は足利氏を興したが、義康の子、足利義清（1183年没）の孫が上記の初代義季であり、足利家から細川の土地を与えられ、またその地名を苗字として細川家初代となり、先ず細川郷「権水城」に入ったと言われる。そして、その兄実国は仁木氏を、弟義宗は戸賀崎氏を名乗った。細川2代俊氏から5代頼之までが細川の城山で育ったと伝えられるが、その字城山には初代義季と5代頼之の菩提寺である「細川山蓮性院常久寺」が現存する。

■浄土宗細川山蓮性院

平成18年8月10日に私は「蓮性院」を訪問したが、この寺の正式名称は「浄土宗細川山蓮性院常久寺」といわれ（図3a）、「常久」とは第5代細川頼之の戒名である。明德元年（1390年）に細川頼之が建立した寺院で、その境内の墓苑にある初代義季（図2）、5代頼之の墓に詣でることができた。そしてこの一隅には、細川家末裔に当たる細川家第18代当主の元内閣総理大臣



図2 細川初代義季の墓（細川山蓮性院）

細川護熙氏が、平成7年10月に墓参りに来所した記念碑が立っていた（図3b）。



図3a 細川山蓮性院



図3b 細川護熙元総理墓参記念碑

■松明院

松明院は、応安元年（1369年）、大給松平が大給城南東の地に建立した寺院で、その後初代大給城主乗元が再建、「稲名院」と呼ばれたが、乗元の死後その戒名をとり「松明院」と改称された。その後天正10年（1582年）、大給松平第5代眞乗が細川郷の現在の場所に移築再建したものである。



松月院

■細川家その後の活動

上記の如く、初代細川義季以来、2代俊氏、3代公頼までは三河細川郷を本拠として活躍したが、元弘、建武の争乱に際し足利尊氏と従った細川一族は、各地で戦功を挙げ、ことに建武2年（1335年）の足利尊氏離反後は第2代細川俊氏の孫定禅らが中国、四国で活躍し、建武3年（1336年）足利尊氏西下に当たり、第4代細川和氏、定禅の兄細川顕氏らは四国における足利再建を委ねられ、四国全土へ勢力扶植の端緒を作った。

第6代細川頼之は関東管領として將軍足利義満を補佐し幕府の重鎮となり頼之の養嗣頼元およびその子孫は代々管領となり、京畿、淡路、備中、四国に勢力を拡張し強大を誇った。

その後応仁の乱（1467―1477年）の10年間に国内治安は千々に乱れ、細川勝元は宿敵山名宗全（持豊）と6年に亘る争闘を繰り返し、兩人とも文明5年（1473年）に病死して共倒れとなった。

（付言）なお、細川町出身の現代っ子として知名度の高いのは、大相撲力士東「関脇」の「琴光喜啓司」であろう。細川小学校、日本大学出身で平成11年3月、佐渡ガ嶽部屋に入門し、恵まれた体躯と篤実さによって、すでに優勝1回、10勝を9回の経歴を有し、今日なお有力な大関候補である。

研究の窓、研究室紹介

成人看護学 教授 三河内憲子



1942年生まれ。出身は岐阜県中津川市。本学のような四季折々の景色に触れながら育ちました。名古屋大学医学部附属看護学校を卒業後、附属病院に就職し、その後母校の専任講師、医療短期大学部、保健学科・大学院と名古屋大学において看護教育に携わってきました。学位(医学)も名古屋大学で取得しました。昨年3月に定年を迎え、4月から日本赤十字豊田看護大学に赴任して伝統ある日赤の看護について触れられるチャンスを得ました。

担当は、成人看護学概論・保健と成人看護学Ⅰ(急性期)で、成人がもつ課題と看護について、学生と共に考える授業を心がけています。成人看護学領域に所属し、講師3人、助手3人の構成員で教育・研究をしています。昨年は、成人看護学(急性期・慢性期)の臨地実習がスタートし、第一・第二日赤病院での実習に、教員全員が精力を注ぎました。学生の皆さんの取り組みも非常に真剣でした。看護は一面では、直接・間接的に人間相互の関係性で成り立って

おり、実践場面での相互理解と共感により癒され、相互に人間性を高めて自己実現していくことにあるともいえます。そのことが看護専門職の最大の魅力でもあると考えています。臨地実習では成人患者と家族に必要な看護を実践する能力の育成を目的として看護過程の展開、技術の提供、看護職者としての態度といった実習目標の達成が必要です。感性を磨き、自主・自律性を培い、悩みながら壁を乗り越える力をも養ってほしいと期待しています。それにはやはり学内での基礎知識・技術の修得が重要です。

主な研究は、短期大学部では、学生を対象にした臨床実習方法に関する研究、さらに臨床実習指導者を対象に個別的な臨床実習指導論(PTCNE)という概念枠組みを用いた調査をし、指導法についての視覚的な自己診断を可能にしました。保健学科では、患者のQOL向上を考えた看護の視点から痛みに関する名古屋版痛み測定尺度(NPQ)の作成・調査やスーパ保有者の自己適応尺度(OSAS)による調査などに関わってきました。今後もQOL向上に関する看護の課題で取り組みたいと思っています。

学生が高いモチベーションを持ち、しっかりとした目標を掲げて、確実に成果を上げていけるような研究室の実現に向けて励みたいと思っています。

Academic Library

図書館司書 中尾 明子

ここにまどみちおの詩集がある。童謡「どうさん」をはじめ多くの作品が載っているが一篇(の一部)を紹介したい。

朝がくると*

朝がくると とび起きて

ぼくが作ったものでもない

水道で 顔をあらうと

ぼくが作ったものでもない

洋服を きて

ぼくが作ったものでもない

ごはんを むしゃむしゃたべる

それから ぼくが作ったものでもない

本やノートを

ランドセルに つめて



こうして、「ぼく」は「ぼくが作ったものでもない」靴をはき、「ぼくが作ったものでもない」道路を通して「ぼくが作ったものでもない」学校へと出かけるのである。「なんのために学校へ行くの?」

これに即答するのは容易ではない。しかし答えは明快に唄われる。

いまに おとなになったなら

ぼくだって ぼくだって

なにかを 作ることが

できるように なるために

今年もキャンパスに新入生を迎え、図書館もガイダンス、館内ツアーを終えた。新入生は思い描いていたキャンパスライフを始めているだろうか。館内OPACやWebOPACで「大学生」「キャンパスライフ」など、キーワードを入力して検索してみてください。授業の受け方、ノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンの仕方等々…針路の手助けとなるはずである。

* まどみちお著、「朝がくると」, in伊藤英治編, まど・みちお全詩集(新訂版), 理論社, 2001, p371-2.

学外活動

ヒマラヤ登山

渡邊 直子



私は昨年10月、ヒマラヤ山脈チョー・オユー8201m(World No.8)のてっぺんに立った。メンバーは福岡県の登山仲間3人と私、ネパール人とチベット人の計10人。海外遠征は5回目だが8000mは未知の世界。まず、ネパールから中国チベットへ入国し、ジープで5000m地点まで5日間かけて行くのだが、短期間で急激な高所移動でメンバー3人が高山病の頭痛に苦しんだ。やっとBase Camp(5700m)に到着した時には、すでに5,600というテントが張り巡らされ、皆登頂の機会を今か今かと狙っていた。ここからは自力で大量の食糧と装備を荷上げしなければならない。普段30kgを平気で担げるのに、ここでは15kgでもヒューヒューいう。500m登るのにも5時間かかってしまう。7日かけて荷上げを終えた時には天候が怪しくなり、そこから7日間、Base Campで待機。岩だらけのBase Campに1mもの雪が積もり、上での雪崩の危険性がますます高まった。どの隊も下山する準備をし始め、

私達も無理だという雰囲気になっていた。しかし、各隊のネパール人ガイド15人が集結し、先発隊となってくれることになり、私達もその後を付いていくことに決まった。最初で最後のアタックにかけた。10月2日午前2時、最終キャンプ地(7600m)を出発。手足の感覚はあまりなく凍傷の恐怖と戦いながら、ついに7時15分登頂に成功した。酸欠で登頂を危ぶまれた仲間もいたが、皆登頂した。幸いこの日だけ快晴で360°の大パノラマ。エベレスト(8848m)もこの目ではっきりと焼きつけた。しかし8201mの世界は下界の1/3の酸素しかなく、風が少し吹くだけで凍えるように寒い。15分もいられなかった。

この遠征で、自然の脅威と人間のもろさを改めて知った。また、高所での身体機能の変化を自分自身で体験できたことは将来医療に携わる者として非常に意義があり、ますます高山医療に興味を沸かした。この遠征に協力して下さった本学の先生方や関係者の皆様に感謝申しあげたい。



公開講座紹介 看護研究

教授 杉浦美佐子

本学では、個性ある豊かな地域づくりを支援するため、公開講座を開催しています。平成17・18年度は看護大学としての特性を活かし、公開講座の対象による区分を、(1)市民向け、(2)看護専門職向けとして、看護や健康に関する講演を通じて地域社会の保健の向上に貢献してきました。特に(2)の「看護専門職向け」は、地域に開かれた大学にするための窓口として、看護専門職の交流の拠点とするとともに、看護専門職のレベルアップに貢献する目的で開催しました。



本稿では、このうち平成18年度に開催された「看護専門職向けの公開講座(杉浦担当3回シリーズ)」についてご報告します。メインテーマは、「看護研究・業務に生かす情報検索・統計処理」とし、看護研究の

初心者を対象に、「看護研究を行う場合に必ずついてまわる疑問、疑問を解決しましょう!」と呼びかけました。内容、日時、参加者は、次のとおりです。①看護研究入門 9月30日(土)参加者29名…「研究テーマの絞り込み」、「これって研究?それとも業務改善?」、「看護研究の進め方」、②看護研究に活かす情報検索 10月14日(土)参加者40名…「文献検索、過去の論文検索ってどうやるの?」、「EBNって?」、③看護研究に活かすプレゼンテーション 11月25日(土)参加者31名…「発表することになったけど、パワーポイントってどうすれば?」。いずれも、参加者から「非常に良かった」と「良かった」のアンケートによる評価をいただき、「今後の研究活動への良い動機づけになった」、「来年以降も継続して開催して欲しい」などの声が聞かれました。

近年は、各大学での市民・専門職向け公開講座が増え、また外国からの招聘講師を組み入れた形式のプログラム開催も各地で行われるようになりました。公開講座の集客を予測することが難しくなっています。しかし、今回、看護専門職向けの公開講座は非常にニーズが高いこと、本学には赤十字の大学として、また、地域から支援を受けて設立された私立大学として、地域の臨床現場を支援する教育内容を企画し、毎年工夫して実施する責務があることを痛感しました。今後は、公開講座という形だけにとらわれない形式で、社会に貢献する働きかけを着実に実施していきたいと考えています。

いとしぎの丘 Vol.5

発行日/2007年4月1日

編集・発行/日本赤十字豊田看護大学

広報・公開講座委員会、企画課

〒471-8565 豊田市白山町七曲12-33

TEL 0565-36-5228 FAX 0565-37-8558

E-Mail info@rctoyota.ac.jp

H P http://www.rctoyota.ac.jp

Information

平成19年度公開講座のお知らせ

学んで健康!『はつらつ生活』をメインテーマとして、一般の方を対象に下記の通り開催します。お気軽にご参加ください。

ホームページ<http://www.rctoyota.ac.jp>の申込フォームからお申し込みいただくか、氏名・住所・連絡先・参加希望講座を明記の上、日本赤十字豊田看護大学企画課までハガキ・FAXでお申し込みください。

講座名	日時・場所	内 容	人数
①尿失禁の予防と生活習慣	平成19年 6月2日(土) 9:30~11:30 場所:本学内	軽度な尿失禁のある者には日常生活において改善する方法を、また尿失禁を予防する生活行動について講義します。	50名程度
②介護サービスの基礎的知識	平成19年 6月23日(土) 9:30~11:30 本学中講義室	制度やサービスについて学びます。また、本学老年看護学の教育についてもお知らせします。	50名程度
③ストレスとうまく付き合おう!	平成19年 9月1日(土) 10:00~11:30 本学 セミナールーム	ストレスについての講話と対処法、希望者にはCOCORO METERでストレス測定もいたします。	50名程度
④生活に、笑いとユーモアを	平成19年 10月27日(土) 9:30~11:30 本学内	健康と笑いユーモアの関係について講話をします。その後、笑いユーモアを具体的に生活に取り入れる練習をします。	40名程度
⑤老人の心の病気(老人性うつ病、認知症)	平成19年 11月24日(土) 9:30~11:30 本学大講義室	老人性うつ病、認知症の症状と予防、治療について。(かんたんテストもいたします。)	150名程度

平成19年度 入学志願者状況

入試区分	志 願 者	募集人員
一 般	355	55
高等学校長推薦	48	30
日本赤十字社中部 各県支部長推薦	28	30
社会人特別選抜	11	5
合 計	442	120

平成19年度 大学の動き

月	行 事 予 定	月	行 事 予 定
4月	入学式 オリエンテーション 新入生合宿研修 健康診断 前期講義開始	7月	オープンキャンパス(21日)
5月	いとすぎ祭	8月	前期講義終了 前期補講・追再試験期間 夏季休業開始
7月	単位認定試験	9月	第2回中部ブロック赤十字 病院看護セミナー オープンキャンパス(25日) 夏季休業終了